

2024 年度
海外帰国生 入学試験
国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 放送の指示にしたがって、問題冊子に受験番号・氏名を記入します。
次に、解答用紙の指定された場所にQRコードシールをはり、受験番号・氏名を記入します。
3. 試験時間は45分です。
4. 問題は、1ページから16ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出てください。
5. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の8割以上は書いてください。ぬき出し問題では、指定された字数で答えてください。どちらの場合も、句読点やかぎかっこなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

受 験 番 号	氏 名
K	

1 次の1〜8の——線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

- 1 まだニュウシが生えかわらない。
- 2 お気に入りのタンペン小説を紹介しよう。しょうかい
- 3 海岸に沿ってボウサリンが続いている。
- 4 師の考えにキョウメイして運動に参加する。
- 5 シヨシン表明の演説が始まるようだ。
- 6 兄が帰ってきたので一安心だ。
- 7 機械を使って肥料を自動的に散布する。
- 8 下手の横好きなので、私の絵はお見せできない。

2

1と6の——線部分と同じ成り立ちであるものを後のアとエから選び、それぞれ記号で書きなさい。

1 おはようございます。

ア 二人で行こう。

イ どうもありがとう。

ウ 真相を問う。

エ 電車はすぐに来るだろう。

2 それはわかりません。

ア よくかんで食べる。

イ 言わんとしていることはわかる。

ウ うまくできませんでした。

エ 駅に行くのはこのバスでいいんだね。

3 書いてあるとおりです。

ア ねこが急に横を向いた。

イ 空がとても美しい。

ウ それはできない相談だ。

エ 新しいくつを買いいます。

4 今日は日曜日だ。

ア その本はもう読んだ。

イ 雨が降っていたのだが、すっかり晴れた。

ウ どの洋服もはなやかだ。

エ そこは市内で一番大きい図書館だそうだ。

5 姉が窓辺で本を読んでいる。

ア とんでもないことだ。

イ 冗談でも言っではいけないよ。

ウ 強風でぼうしが飛んでしまう。

エ 静かでない勉強がはかどらない。

6 すぐに怒るのはよくないな。

ア おかしなことを言っている。

イ それが本当なのだからしかたない。

ウ 集中している時に話しかけるな。

エ どの花もすぐくきれいな。

3

次の文章は、高校に入学した「おれ」が、園芸部に入部し、「大和田」「庄司」といっしょに三名の部員で活動していく小説の一部分です。「庄司」は、段ボール箱をかぶって相談室に登校していて、他の生徒の前には姿を現しません。これを読んで、後の問いに答えなさい。

おれと大和田は、庄司に買ってきた花苗はななえを見せてから、花壇かだんに植えつけにいった。

まず、ペチュニアというのは、育っていくうちに茎くきが地面をはうように横に伸びるから、花壇の一番手前にし、たれさがつてもいいようにした。ペチュニアのあいだにメランポジウムを入れる。それから草丈くさたけの高いサルビアを後ろに植え、ジニアは両端りょうたんで、左右対称たししょうになるようにする。

こうして一週間で園芸部が手がけた初めての花壇ができあがった。小さなブドウが穂先ほさきについているようなサルビアがまず目につく。その手前にペチュニアのやわらかな花と、メランポジウムの小さな花。両端にはジニア。といっても、花ばかりが目立つ人工的な花壇ではなく、葉が多くて自然な感じだ。

花色としてはペチュニアが白、ジニアも白で、メランポジウムが黄色、サルビアが紫むらさきがかった青。白の分量が最も多く、次が青。黄色が一番少ない。色合いも地味だが、赤系の花壇よりもかつこいいというのが、三人の共通した意見だった。

これから育つことも考えて、少し離はなして植えたので、ま

ぬけた感じもするが、それでも植え終わった大和田とおれは、黙だまって軍手をはずし、満足した気分で花壇を見つめた。

次の日、大和田とおれは、注①「けどものジーサン」に花壇作成終了しゅうりょうの報告にいった。「たった三人だけでも、よくやってくれたねえ。ご苦労さん、ご苦労さん」といってもらい、ほっとした。

それ以外に特に反響はんきょうはなかった。①「なにやってんの」と声をかけてきたクラスの友達からも、なにもいわれなかった。大和田も同じだったらしい。

「あの花壇ひとつで、入り口の感じがすごくよくなったのになんねえのかな。無風流なやつらだぜ」

しかし、おれはしかたがないと思った。ほんのちょっと前まで、おれもその無風流なやつらの一人だったのだ。

それより、②自分の変化のほうがおもしろかった。水やりをするようになってから、なんだかんだで、もう二か月になる。それまでアサガオとヒマワリとチューリップくらいしか知らなかったが、今ではペチュニア、ベゴニア、インパチェンス、マリーゴールド、サルビア、ルピナス、ジニア、ゼラニウム、メランポジ

ウム、バーベナは一目でわかる。

知っている花が増えると、家の近所や通学途中の道路に、急に花が増えた。

もちろん、そんな気がただだけで、前からあったのだろう。でもこれほど花や草がたくさんあるなんて、花壇ができあがっても無反応の生徒と同じように、それまでのおれは、本当に気がつかなかったのだ。

今では歩道や人の庭の花を見るたび、「これはベゴニアだ」とか「あれは黄色のジニアだ」と思う。通りすぎたあとで「今の花はなんだったんだろう」と振り返ることもある。

よく手入れされた鉢や花壇を見ると、嬉しくなった。特に、駅横の古い公衆トイレの前に、目立たない花壇があるのだが、それがとてもかっこいい。あるときは、青い小花と白い小花が帯状に植えてあり、草原のように見えた。本で調べると、青がネモフィラ、白の小花がスイートアリッサムという花だった。

逆の意味で気になるのは、しおれている花を見たときだ。なかでも、うちの近所にある写真のスピード印刷店は最悪だ。店の前に、アルバムを並べたワゴンが出ているのだが、その足元に木の樽のような鉢がひとつ置かれ、赤いインパチェンスが植えられている。

赤いインパチェンスは、おれが学校に持っていったのと同じ花

だ。学校の倉庫の裏では、どんどん伸び、毎日元気な赤い花を次々に咲かせているのに、その店のインパチェンスは、汚くなった花びらをたくさんつけて、しおれていた。朝七時から夜の十時までやっている店で、登校するときあいているのだが、店の中をのぞくと、いかにもバイトらしいお姉さんが、カウンターにひじをつけて、いつも自分の髪をいじっている。

枝毛とるより、水やってください。

そう、いいなかった。でも、いえなかった。視線に気がついたのか、お姉さんはこっちを見てにらんだだけだ。

スピード印刷店のインパチェンスは、日に日にしおれていく。絶対に水をやり忘れてる。

一週間後、決心していつもより早くうちを出た。水を入れたペットボトルと前日に学校から持ち帰った園芸バサミとゴミ袋を持つ。朝七時前だから、スピード印刷店はまだあいていない。シャッターが下ろされ、インパチェンスの鉢は、外に出しっぱなしだ。

駅に向かう人が、横を時々通りすぎていくなか、おれはインパチェンスの鉢の前にしゃがみこむ。ドキドキしながら急いでペットボトルの水を根元にかけた。それから園芸バサミで花がらを手早く摘み、ゴミ袋に入れる。最後にあらかじめ用意したメモを花の中にさしこんだ。

「毎日、水をかけてください。のどがカラカラです。インパチェンスより」

⑥ かなり恥ずかしい文面だった。でもおれが毎日本水をやることはできない。

その日の帰り、店の前を通ったとき、メモがなくなっていることを確かめた。朝、水をたっぷりやったから、元気になっている。

次の日も元気そうだった。その次の日もだ。よかった、水をもらっているらしい。おれはほっとした。

そして次の週、枝毛をとっていたおねえさんが、ジヨウロで水をやっている場面に遭遇した。嬉しくて思わず笑顔で頭を下げると、変な高校生だと思われたらしく、またにらまれた。

「また、玄関に花が置いてあるな」

夜、風呂から上がった父さんが、洗濯物を干しながらいった。

おれは歯を磨いていたが、洗濯物が目の前にあらわれると、反射的に広げてハンガーにかける。分業が染み付いているのだ。夜のうちに洗濯物を干す。夜できることは夜やり、朝の仕事はできるだけ減らす。家事の負担を減らす基本だ。

「あれはなんていう花だ」

「いいいいおう」

歯ブラシを口に入れたまま答えた。

「イイイオウって、なんだそりゃ」

口をゆすいでから、もう一度答える。

「ニチニチソウ」

小さな花だが、折り紙のように平たくてかっちりとした感じの花だ。花びらの色は赤やピンクもあったが、白を選んだ。白い花びらで真ん中だけが赤い。

「花を育てたいなら、うちでもやってもいいんじゃないか。庭がなくてもベランダでもいいんだろ」

「学校でやるからいいよ」

うちで一人でやるのはおもしろくない。大和田や庄司と一緒にやるからいいのだ。でもそういえば、うちには花も観葉植物もひと鉢もない。

「昔はうちに花あった？」

最後のタオルをハンガーにかけながら訊いてみる。

「どうだったかな」と、父さんは首をかしげた。「ベランダにひと鉢くらいあった気がする」

「その鉢はどうなったの」

「さあなあ」

「さあなああって、枯らしたのか。ひどいな」

「しかたないよ」と、父さんは肩をすくめた。「その頃は、とにかく忙しくて、大変だったんだ。人間って忙しすぎると、記憶

がなくなるんだそうだ。^{注3}ピンク・レディーも、ベストテンに出たことを覚えてないらしい」

「誰だよそれ」

父さんが笑った。

「昔のアイドルさ。忙しすぎると、そうなるんだよ。とうさんも同じだ。それでも、おまえと二人、なんとかやってきたんだ」

アメリカカンブルーという花は、晴れた空のような、青くて小さな花を数え切れないほどいっぱい咲かせる。だが六月の終わりになると、花の数が半分以下になった。そのうえ茎がずいぶん伸びて、鉢に対して大きすぎる感じになってしまった。

植え替えをすればいいのか？ これまた庄司に訊くと、切り戻しをしたらいいいのではないでしょうかとということだった。

「切り戻し」とは、新芽を残して茎を切ることだ。新芽がまた伸び、新しい花が咲くらしい。しかし新芽まで切ってしまうえば花の咲かない葉っぱだけの草になってしまう。

ハサミを手にして、アメリカカンブルーの前に立った。新芽というのがいったいどれなのか、よく見てみる。太めの茎から細い茎が出ているが、その細い茎が生えはじめるその付け根に、小さなぼつりとした新芽がある。その新芽を残すようにしてその上で切った。

慎重に切っていたが、切り戻しが終わると、ひとまわりどころじゃなく、三分の一くらいに小さくなった。まるで散髪しすぎた頭だ。

これで本当に新しい花が咲くのか、このまま枯れてしまうのではないかと心配になったが、一週間後、湧いたようにどっと咲いた。一番盛りだった頃と同じくらいの花の数で、切り戻しはすごいと実感した。

六月の終わりには大和田が、捨てられていた鉢を拾ってきたこともあった。それも、高さがメートル以上ある観葉植物だ。梅雨に入った雨の朝、学校にくる途中のゴミ集積場に捨ててあったのを拾い、びしょ濡れで鉢をかかえて坂道をのぼり、学校まで持ってきたのだ。木の幹はかさかさに乾いたベージュ色で、てっぺんから大きな細長い葉っぱが十枚ほど生えていた。だが、十枚のうち九枚は枯れて茶色く変色している。

「でも、てっぺんに生えてる残りの一枚を見ろよ。まだ緑色だろ。生きてるのに捨てられたんだ。ひどくねえか」というのが、大和田が拾ってきた理由だ。庄司が段ボール箱の穴からじっと観察した。

「これはおそらくドラセナ、いわゆる幸福の木ですね」

木に対して鉢がずいぶん小さかった。そこで三人でひとまわり大きな鉢に植え替えた。水をたっぷりやり、固形の肥料を何粒

か土の上に置いて、温室の中に入れてやった。

二週間ほどすると、みるみる新しい葉が出てきた。まるで早送りのようにものすごいスピードだ。下の枯れてしまった葉は、さらに茶色くなって落ちてしまったが、てっぺんから、つやつやとした薄緑色の葉が次々に出てくる。こうして捨て猫ならぬ、捨て鉢の幸福の木も、園芸部の仲間となったのだ。

六月の時点で枯れてしまったものといえ、最初のパンジーだけだ。といっても、すべてが花を咲かせているわけでもない。

たとえば、園芸部時代からの鉢のシクラメン。これは冬の花だから夏は咲かない。リングみたい丸い葉っぱが数本生えている

だけだ。

芽が出たペチュニアの小さな苗も、花を咲かせていなかった。タネから育てて愛着があるが、ポリポットに植え替えてから枯れてはいないものの、七、八センチくらいまで伸びてからは大きくなっていない。すでに開花期だが、花の咲く気配もない。やっぱりタネから育てるのは無理だったのだろうか。

それから一番気がかりなのが、大和田が買ったストックの鉢だった。芽さえ、まだ出ていない。

(魚住 直子『園芸少年』講談社による)

注1 「けどものジューサン」 〓 園芸部顧問のニックネーム

注2 写真のスピード印刷店 〓 写真を短時間でプリントする店

注3 ピンク・レディー 〓 ヒット歌手で、ベストテンなどの歌番組によく出演していた

——線①「『なにやっつてんの』と声をかけてきたクラスの友達からも、なにもいわれなかった。」とありますが、「おれ」のどのような心情を表現していますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分はクラスメイトから相手にされない存在なのだとふてくされた気持ち

イ 自分が園芸部であることを冷やかされなくて良かったという安どの気持ち

ウ 学校のためにしている仕事がみんなに認められず、腹立たしい気持ち

エ 自分が工夫して作った花壇が、他の生徒にはかえりみられず残念な気持ち

オ 花壇をいろいろ草花の美しさを理解できないクラスメイトをばかにする気持ち

- 2 —線②「自分の変化」とありますが、どのような変化がありましたか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 好きな花の種類が変わったということ
- イ どんな草花も好きになったということ
- ウ 興味がなかったものに興味が広がったということ
- エ 園芸植物の構造に関する知識が増えたということ
- オ 部活をがんばりたいという意識が芽生えたこと

- 3 —線③「急に花が増えた」とありますが、これはどのような意味ですか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 花に関する知識が増えたということ
- イ 花を気に留める機会が多くなったということ
- ウ 園芸部の活動で花の咲く花壇が増えたということ
- エ 花を咲かせられるような技術を獲得したということ
- オ 時間が経過し、花が咲く季節になったということ

- 4 —線④「嬉しくなった」とありますが、これはなぜだと考えられますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 周囲に植物が増え、自然が回復していることが感じられるから
- イ 草花があることで、周囲の景色が美しく感じられるから
- ウ 自分たちの活動に共感を覚え、同じように花壇を作る人が増えたと感じられるから
- エ 自分と同じく苦勞して手入れをする人の気持ちを感じられるから
- オ 他の花壇の草花の様子を観察することで自分たちの活動の参考になるから

- 5 —線⑤「決心して」とありますが、「おれ」が「決心」したのはどのような内容ですか。次の()にあてはまるように、五十文字以内で説明して書きなさい。

(五十字以内) (こと)

4 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

タイトルを目にして「？」が頭に浮かんだ。①「おがくずを用いた新しい耐火性および断熱性素材の開発」。おがくずはいかにも燃えやすそうだ。ところが、耐火性を持つ、すなわち燃えにくいのだという。いったいどういうことなのだろう。

この奇妙な素材を生み出したのは、岡山県立岡山一宮高校の生徒6名。彼らはこれを2020年の「令和2年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）生徒研究発表会」で発表し、全国2位に相当する国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞を受賞した。

研究内容の概要によれば、この素材で皿（蒸発皿）を注コーティングし、その上に生卵を載せ、皿の下からガスバーナーで炙つても、素材が燃えることはなく、生卵もしばらくそのまま、目玉焼き状態に変わるまでに約40分要したという（何もコーティングせずに皿をバーナーで熱した場合には5分で固形化する）。たしかに耐火性と断熱性に優れている。

この研究に筆者が惹かれたのは、燃えやすそうなおがくずを燃えにくくするというアイデアの奇抜さと、その新素材が環境に優しいかどうかまで検証していた点にある。6人チームの役割分担にも興味を持った。

研究チームのリーダーを務めたのは、現在は九州工業大学一年生の吉田直希さん。吉田さんが断熱性のある素材に興味を持ったきっかけは、②インターネットの記事「超素材 Starline の秘密を墓場まで持っていた男、モリス・ワード」を読んだことだったという。

「スターライトは、モリス・ワードというイギリスのアマチュア化学者が1990年に発表したものです。1万度（摂氏）の高熱に耐え、軽くて硬い上に加工もしやすい素材で、宇宙船や航空機に使えるところが期待され、NASA（アメリカ航空宇宙局）や大手企業から手を組もうと、執拗にワードさんはアプローチされたようです。ところが、お金の問題に嫌気がさしたらしく、ワードさんはスターライトの作り方を誰にも伝えずに2011年に亡くなりました」

噂では、ワード氏は家族だけに製法を伝えているが、家族も口を固く閉ざしており、オリジナルのスターライトの秘密は明らかになっていないまらしい。

吉田さんらは我こそはと意気込んでスターライトを作ろうとした。ヒントにしたのがアメリカの YouTuber で、発明家のベン氏による YouTube チャンネル「NighthawkInLight」で配信されているスターライトに関する一連の動画だ。たとえば「A Super-Material That Can Be Made in The Kitchen (Starlite Part1)」と題された動画で、ベン氏はどこの家庭の台所にもある材料で、スターライトに似た性質を持つ素材を作ったとし、ペースト状にこねたその素材を生卵に塗りつけ、ガスバーナーで炙る様子を紹介している。卵は生のままだった。その材料とは、コーンスターチ、ベーキングパウダー、そしてアメリカの学校などで一般的に使われる白い糊である。ベン氏はこの動画中、「オリジナルのスターライトの作り方に近いかわからないが、かなり有望と思われる」と述べている。

吉田さんらはまずベン氏のレシピを試した。

「YouTube で紹介されている通りの材料で実験しても再現できませんでした。③ アメリカから同じ糊も輸入しましたが、何度やっても熱くなる。僕たちのやり方がまずかったのか、動画では公開していない秘密の材料が加えられているのかわかりませんが、低温のガスバーナーを使っている可能性もあると考えています」

YouTube には「こんな実験をやってみた」という動画があふれている。筆者などは「へえー、すごいもんだ」と感心するだけだが、^④ 案外、いい加減なものもあるのかもしれない。

「スターライトを作れたんですけど、よく考えると、化学メーカーや建築会社などがこれまでとてつもない資金を注ぎ込んでいるにもかかわらず開発に成功していないものを高校生が張り合って作るのは無理だなと思います。そこで、どうせ断熱材を作るのなら廃棄物を再利用しようと考えたんです」

廃棄物を再利用できれば、環境問題の解決に貢献できる。新しい素材に^⑤付加価値もあれば、「(科学コンテストでの)賞も獲得できる」との打算もあった。しかし、原材料になりそうな廃棄物はなかなか見つからなかった。

「いろいろなものを試しました。接着剤も燃やしたんですが、これはダメだっですぐにわかるといいうか、明らかに体に悪そうな臭いがしましたね」

他の生徒も共同で利用する理科室に、しばしば悪臭を放ち、肩身を狭くしながら有望な廃棄物を探索するうち、マイクロプラスチック問題を知ったという。マイクロプラスチックとは、歯磨き粉に含まれる微細なビーズや、ポイ捨てされたポリ袋、ペットボトルなどが劣化して細かく砕かれた破片のことである。川から海へ流れ出て、食物連鎖を通じ、海洋生物はもちろん人にも健康被害をもたらすと懸念されている。

「マイクロプラスチックのかなりの割合を砕かれた発泡スチロールが占めています。それなら発泡スチロールの役割に替わる材料で、使用後は土に還る、生分解性を持つものがよいだろうということで、おがくずにたどり着きました」

近隣の製材所やホームセンターに声をかけると、無料でおがくずを提供してくれた。木をノコギリなどで切って角材や板材に加工する製材所やホームセンターでは、日常的に大量のおがくずが発生する。一部はクッション性を持つ梱包材、畜産やペットの敷物、駅ホームで嘔吐物処理するための吸収剤などに再利用されるが、大半は焼却処分されている。焼却するにも産業廃棄物としての処理費用がかかる。タダでおがくずを引き取ってくれるなら、事業者としても願ったり叶ったりだろう。

原材料の確保のメドは立ったが、おがくずそのままでは用途が限られる。できれば大量の使用が見込まれるコップや皿などの食器、あるいは建築資材などに用途を広げたい。そのために新たなおがくず素材には、熱を伝えにくい性質（断熱性）がほしい。どうすればおがくずの断熱性を高めることができるのか。

文献を調べると、同じ木材でもコルクやバルサの方がチークやヒノキより熱を伝えにくいことがわかった。熱の伝わりやすさ、伝えにくさ（熱伝導率）は固体の密度でおおよそ決まる。熱の正体は原子の運動だ。密度が高ければ高いほど、言いかえると固体を構成する原子と原子の距離が近ければ近いほど、ある原子の運動が隣の原子を動かし、また隣の原子を、という具合に玉突き式に全体に広がりやすい。逆に密度が低く、固体がスカスカだと、熱は伝わりにくくなる。

そこで、⑦ するため膨らみ粉としてクッキーやパンケーキに使われる重曹、粘着性を与えるために糊をおがくずに加え、パテ（粘土のように変形しやすいペースト状の材料）を作った。

試しに火にかけてみると、炎が燃え移ることもなく、パテは発火しなかった。燃えやすいはずのおがくずが燃えなかったのだ。「おがくずは粒が大きくて、空気を含んでいるので、元々、断熱性は高いんです。ただしそのままだと燃えやすい。ところが重曹と糊を加えて作ったパテは簡単には燃えなかったんです」

断熱性に加え、耐火性を持つ素材なら用途も広がる。しかしなぜパテは耐火性を示したのか。吉田さんらは窒息作用によるものだろうと考えた。重曹の实体は炭酸水素ナトリウムで、熱を加えると、分解され二酸化炭素を発生させる。その二酸化炭素により周辺の酸素が押しつけられ、つまり窒息して、パテに火が付かないのではないか。吉田さんらは、この仮説を検証することを、^⑧研究の目的に定めた。

岡山一宮高校は2002年に文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の指定を受け、再指定に次ぐ再指定を経て現在4期目（2023年度まで）を迎えている。前述したように、SSHには「課題研究（または課題探求）」と称するカリキュラムが設けられ、その中で、生徒たちは教員のアドバイスをもらいながら自らテーマを決め、実験方法を考え、結果をまとめる。おがくず新素材に関する研究も、この課題研究の時間に行われた。

（緑 慎也 13歳からのサイエンス 理系の時代に必要な力をどうつけるか』ポプラ社による）

注1 コーティング Ⅱ 物の表面をおおうこと

注2 執拗 Ⅱ しつこいさま

Ⅰ 線① 『おがくずを用いた新しい耐火性および断熱性素材の開発』とありますが、筆者はこの研究のどのような点に惹かれましたか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 豊かなひらめきと個性あふれる研究者たちの好奇心によって成立しているという点

イ 高校生ならではの着眼点の奇抜さと、若い世代が中心となって進められた研究であるという点

ウ 発想のおもしろさに加え、環境への配慮があり、個々の力を合わせた研究であるという点

エ アイデアに意外性と将来性がある点や、高校生たちが意欲的な姿勢であったという点

オ 高校生たちの自由な発想によるものである点と、環境問題への熱意が感じられるという点

2 — 線②「インターネットの記事」とありますが、吉田さんがこの記事を読んで感じたことの説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア すばらしい素材であるが、その製造法がまだ不明であるという点に大きな収入を得られる可能性を見いだした。
イ 製造法は伝わっていないが、耐熱性もあり、加工もしやすいすばらしい素材が存在したということに興味^{いだ}がわいた。
ウ お金の問題に嫌気がさし、すばらしい素材の製法を誰にも伝えずになくなったワード氏に対して尊敬の念を抱いた。
エ まだ誰にも知られていない、すばらしい素材の製造法を、自分だけが知りたいと強く感じた。
オ 記事を読み、まだだれも生み出したことのないすばらしい素材を作ることが自分の使命だとさとした。

3 — 線③「アメリカから同じ糊も輸入しました」とありますが、これはなぜだと考えられますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 国内のものでは性能がおとると感じたから
イ 同じものを使う方が値打ちが上がるから
ウ いろいろなものを試したいと思ったから
エ 日本では白い糊が手に入らなかったから
オ 条件をそろえるべきだと考えたから

4 — 線④「案外、いい加減なものもあるのかもしれない」とありますが、筆者がこのような感想を述べたのはなぜだと考えられますか。ふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 知識に頼るばかりでなく、結局は自分で考えていくことが大切だと感じているから
イ 多くの情報があふれる現代において、情報を取捨選択する方法について考えてほしいから
ウ インターネットという情報ツール自体をまずはうたがってみるべきだと主張したかったから
エ わからないことやできないことを、かかえこむことなく、たくさんの人と共有してほしいと思っているから
オ 仲間と意見を交わし合い、話し合うことで自信をつけていくことが成長のために必要だと考えているから

- 5 — 線⑤「付加価値」とは、どのようなことを指していますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
- ア 熱を通しにくいということ
 - イ 環境によいということ
 - ウ 手に入りやすいということ
 - エ まねしやすいということ
 - オ 燃えにくいということ

- 6 — 線⑥「おがくずそのままでは用途が限られる」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 密度が低いままであると、その特性を生かしきれないということ
- イ 加工せずに使用することで、環境への配慮が限定的になるということ
- ウ 素材そのままでも、断熱性はうまれないということ
- エ 素材の持つ断熱性だけでは、多目的素材としては使用できないということ
- オ 素材そのものを生かそうとすることで、高い断熱性が失われてしまうということ

- 7 ⑦ に入ることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

- ア 密度を低く
- イ 原子を大きく
- ウ 耐火性を高める
- エ 耐久性たくしやうせいを高める
- オ 万能性ばんのうせいを加える

8 — 線⑧ 「研究の目的」とは何ですか。文章中の言葉を使い、次の（ ）にあてはまるように四十字以内で書きなさい。
おがくずに（ ） 四十字以内（ ） という仮説の検証

(下書き用)

					おがくずに
	32				
という仮説の検証					

(問題はこれで終わりです)